令和６年度 学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校）

目指す学校像	・地域と協働した探究的な学びを通して、社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から信頼される進学を重視した学校

重点目標	１　学習指導・進路指導を充実させ、確かな学力と主体的に学ぶ力を育成し、進学実績の向上を目指す ２　探究的な学びを推進し、他者との協働活動に積極的に参画する態度と協働する力の育成を目指す ３　人間としての在り方生き方に関する教育を実践し、他への寛容な心、思いやりの心を醸成し、相互理解と人権意識の育成を目指す ４　保護者、地域や他機関との連携・協働を積極的に進め、開かれた魅力ある学校を目指す

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	７名
	生徒	６名
	事務局（教職員）	１３名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（１月２７日　現　在　）			実施日　令和７年２月１０日
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・特進クラスの導入、段階的で体系的な進路指導の充実等により、生徒の多様な進路希望に応えている。 ・ICT を活用したＨＲや授業の運営が実施できている。 ・朝学習の実施、自習室の利用及び学習サポーターの活用を通じて学習に向かう態度を醸成している。 【課題】 ・生徒の学習習慣を確立して学習意欲及び学力の向上を図る必要がある。 ・特進クラスを始めとした大学進学希望者の学力を伸ばし一般選抜に適応できる状態へ指導をする必要がある。 ・総探の学びを更に充実させ総合型選抜入試に対応できる実力を身に着けさせる必要がある。 ・各教科において、ＩＣＴを活用した授業実践を更に進める必要がある。	生徒の学習習慣を定着させ学習意欲を高め、進学実績の向上につなげる	①朝学習の充実及び自習室の活用等により学習習慣を確立させ、基礎学力の向上を図る。 ②授業力の向上と進学補講の充実により基礎学力の向上を図る。模試、英検受験を一層推進する。 ③探究推進部と進路指導部が連携してカリキュラムマネジメントを行い、総合型選抜入試で求められる力を育成するためのプランを研究する。 ④学校全体でＩＣＴを活用（ロイロノートの活用等）した授業の研究、研修会等を通年で行う。 ⑤新しい時代に求められる資質・能力を育成するための探究的な学びを通年で推進する。	①生徒へのアンケートにおいて、朝学習の課題提出状況は向上したか。自習室の利用人数は増加したか。家庭学習時間は増加したか。 ②模試の受験人数及び模試成績が向上したか。英検合格実績は向上したか。大学進学実績は向上したか。一般選抜受験者数は増加したか。 ③総合型選抜に挑戦する生徒を育成する指導体制を構築することができたか。 ④すべての教科の授業で、ＩＣＴを活用した授業実践を進められたか。 ⑤地域や外部専門家と連携し、地域との協働による探究的な学びを通年で計画的に実施できたか。	①放課後自習室に学習サポーターを配置し、自習室を利用する生徒は増加した。授業アンケートから、家庭学習している生徒は 52.1%で、昨年度と比べ横ばいだった。 ②特進クラスを中心に、模試の偏差値が昨年度の同時期と比べ向上した。大学進学実績や一般選抜受験者数は昨年度と比べ向上・増加した。 ③進路指導部と探究推進部が連携し、総合型選抜への指導体制の構築ができつつある。 ④教員を対象にロイロノートの研修を行い、全生徒を対象に人権教育を実施した。埼玉県初のロイロ認定校となった。 ⑤総合的な探究の時間や地域創造学、ＤＸハイスクール等を通して、地元飯能市との連携強化、また、新たに早稲田大学、ソフトバンク等と連携でき、本校の教育活動の礎を築くことができた。	B	①朝学習に点検読書を取り入れるなど、基礎学力の向上に努めた。朝学習や自習室の利用など、引き続き、学習習慣の確立に努める。 ②進路指導部と探究推進部との更なる綿密な連携のもと、生徒の希望進路に沿った指導を行っていく必要がある。 ③探究活動を生かした総合型選抜への受験について、引き続き研究していく必要がある。 ④ロイロノートの更なる活用を含め、教員の ICT 研修を継続し、研究していく必要がある。 ⑤探究やＤＸハイスクール等の連携を継続させるとともに、発展させていく必要がある。	・取組により自習室の利用人数が増加し、また、特進クラスを中心に模試の偏差値が向上するなど学習意欲は高くなっていると考える。 ・探究教育や DX ハイスクールを通じて、地域、学校、民間企業との連携や取り組みを更に推進していただきたい。 ・これからの生徒たちや先生方に必須となる力と鑑み、実施した「DX ハイスクール」は先見の明あり。今後、「はんこう」の核(目玉)としていく価値がある。今「はんこう」がやろうとしていること、やっていることが評価されている結果が、生徒募集の定員大幅増に繋がっている。特進クラスの成果が 3 年目の来年出る。大いに期待する。 ・組む方向性と成果から達成度を「A」としたい。
2	【現状】 ・３年間の体系的で綿密な指導計画のもと総合的な探究の時間を実施している。 【課題】 ・学際的な学び推進事業と連動させながら探究的な学びを更に推進していく必要がある。 ・他校の探究活動を研究（視察）し、本校の探究活動に活かしていく必要がある。	他者との協働活動に積極的に参画する態度と協働する力の育成を図る	①学校全体で総合的な探究の時間を体系的に実施する。 ②各教科の授業において、主体的・協働的活動を取り入れることを推進し、探究的な態度を育成する。 ③他校の視察を今年度も実施し、本校の探究活動の質をより高める。	①学年ごとに共通のワークシートを用いて総合的な探究の時間を計画的に実施できたか。 ②授業評価アンケートにおいて、生徒の学びに向かう態度について向上的視点が見られるか。 ③他校を視察し、本校の探究活動と比較・検討を行い探究活動の質を高めることができたか。	①探究推進部を各学年に置き、計画立案や実施と組織的に探究を推進している。 ②授業アンケートから、学校の授業に集中して取り組んでいる生徒は 92.0%であった。 ③金沢工業大学を訪問し、生成 AI と探究の関わり方を研究した。探究の授業に積極的に取り入れるなど、生成 AI の可能性について研究している。	A	①探究推進部の体制を整え、学校全体で探究活動を実施していく。 ②次年度も授業アンケートを実施し、生徒の授業の取組状況等から分析していく必要がある。 ③引き続き、学校の外に目を向け、先進校を視察し、探究活動の質を高めていく。	・評価項目の達成状況から他者との協働活動に参画する態度と協働する力の育成が図られていると判断できる。 ・探究的な学びに対する生徒たちの積極的な取り組みを感じる。 ・はんこうの目標の柱でもある探究に、推進部を立ち上げたこと、真剣度がわかる。外部にも目を向け視察や連携にも取り組んでいる。今後にも期待する。生徒間のコミュニケーションを図る取り組みの可視化を望む。
3	【現状】 ・コミュニケーションに課題のある生徒や不登校傾向にある生徒など多様な生徒が在籍している。 【課題】 ・生徒間のコミュニケーション能力の低下が散見され、コミュニケーション能力の育成及び生活上の基本的ルールの習得を図る必要がある。 ・生徒及び保護者の視点に立った丁寧な対応と関係機関との連携を行い、校内の支援体制を構築する必要がある。	多様な困難を抱えた生徒へのきめ細やかな支援を行う	①生徒指導部主導で生活指導の在り方について、共通理解を基に指導体制を構築する。 ②アサーショントレーニングやネットモラルの情報教育等から相手を思いやる心を育成する。 ③ＳＣやＳＳＷ等を活用し生徒や保護者の心的ケアを図る。 ④教育相談的配慮を必要とする生徒への支援体制を構築する。	①学校全体で共通した指導体制が築けたか。 ②具体的な情報リテラシーに関する教育を実践できたか。 ③生徒や保護者の状況に応じて、適切に関係機関につなぐことができたか。 ④教育相談や個別的学習支援が必要な生徒への支援体制の校内基準を作成し構築することができたか。	①生徒指導部、いじめ防止委員会、教育相談委員会など学校全体で組織的に対応している。 ②警察署と連携し、情報リテラシー教育を行った。 ③保健室と教育相談委員会が連携し、生徒や保護者の状況に応じてＳＣやＳＳＷに繋げた。 ④教育相談委員会が中心となり、組織的に情報収集、支援方法を考えるなど、個々の生徒の状況に合わせて支援している。	A	①次年度においても生徒指導部等が中心となり、学校全体で組織的に指導していく。 ②ネットモラルは喫緊課題の一つであるため、引き続き情報リテラシー教育を実践していく。 ③引き続き、関係機関と迅速的に連携していく。 ④定期的に教育相談委員会を実施するなど、委員会内で情報共有を図り、課題解決に向けて組織的に取り組む。	・評価項目の達成状況から多様な困難を抱えた生徒へのきめ細やかな支援は行われていると判断できる。困難を抱えた生徒に対する支援のために、引き続き、生徒指導部をはじめ様々な組織により学校全体で対応してもらいたい。 ・人間関係を築くためのコミュニケーションは必須。ネットモラルは意図的に学習できる機会を持たせたい。取り組んでいる成果は、見えづらいが必ず出てくるであろう。根気よく取り組んでほしい。
4	【現状】 ・飯能市役所及び商工会議所等と連携し、模擬面接指導などの進路指導や地域について学ぶ探究活動を実践している。 ・学校説明会を７月以降に月１回程度の頻度で全職員で工夫して実施している。 【課題】 ・学校運営協議会を通じて、コミュニティスクールとしての役割を果たす必要がある。 ・新校情報を外部に積極的に発信し認知度を上げる必要がある。 ・ホームページを適宜更新するなど、本校の魅力を外部へ情報発信する必要がある。	地域と連携して、本校の魅力発信に取り組む	①学校運営協議会において、意見交換を行い、連携・協働による事業を検討する。 ②本校の魅力を中学生及び保護者に伝えるため、学校説明会等の実施や学校案内の制作を実施する。 ③ホームページの適宜更新をはじめ、学校の情報をあらゆる機会に様々な方法で適時に発信する。 ④中学校との連携を強化し信頼関係を築く。	①学校運営協議会を年３回（５/28、11/16、１/31）計画し、焦点を絞った意見交換を行えたか。 ②学校説明会等を組織的に内容を工夫をして行うことができたか。 ③閲覧しやすいホームページに改良し、学習活動や行事、部活動など適時に情報発信し、更新数は増加したか。 ④中学校訪問、相互教員研修、学校説明会等の事業を通し、中学校との交流が増加したか。	①計画された学校運営協議会を滞りなく実施し、委員と積極的な意見交換を行った。 ②年度当初に説明会での説明事項を精査し、計画していた説明会等を滞りなく実施した。 ③ホームページをわかりやすい構成に整理し、Line や Instagram 等を含め、情報発信に努めた。Instagram のフォロワー数が増加した。 ④近隣市町への中学校訪問、飯能市・入間市・狭山市への出前授業、授業力向上委員会を中心とした飯能市内中学校への授業参観など、中学校との連携に務めた。	A	①学校運営協議会において活発に意見交換し、より良い学校運営を行っていく必要がある。 ②次年度も本校の学校説明会等を通じて本校の魅力を発信していく。 ③ホームページだけでなく、中学生の主な使用ツールである Instagram を活用して、中学生に向けて情報発信していく。 ④中学校訪問や出前授業等を継続するとともに、中学校の学びを知るために中学校への授業参観を継続していく。	・学校の教育方針や取り組み等々を、様々な情報ツールを使用して告知されているので、更なる告知の強化を図っていただきたい。既存の事業を他団体等による事業にアウトソーシング可能であれば、今後も推し進めていただきたい。 ・地域との連携は、市役所、商工会議所、駿河台大学、市内中学校、他市と幅広く組織的計画的に行われている。新校となり 2 年、今までの伝統と新しさの違いを今一度示す必要があるか？今後も「学校を開く」ことを続けてほしい。 ・情報発信の成果が入試倍率に反映されている。